

## 前ファイザー副社長の COVID-19 ワクチンへの警告:

「あなたの政府は、あなたを死に至らせるかもしれぬやり方で、ウソをついている」

Infowars, LifeSiteNews.com

April 9, 2021

Dr. Michael Yeadon——Pfizer 社の前副社長で、アレルギー & 呼吸器科学主任として、32 年間で、この産業の指導的な新しい医学の研究に捧げ、この巨大製薬業の、彼の分野で「最年長の研究者ポスト」を最近、辞した人物——が、LifeSiteNews に対して語った。

<https://www.lifesitenews.com/news/former-pfizer-vp-no-need-for-vaccines-the-pandemic-is-effectively-over>

彼は、COVID-19 に対する諸政府の、「明らかに証明できるウソ」のプロパガンダについて話したが、そこには、危険な変異種についての「ウソ」、「ワクチン・パスポート」に対する全体主義的危険性、それに我々がある「陰謀」に関わろうとしている強い可能性があり、それは、20 世紀の戦争や大量虐殺で、我々が経験した流血を、はるかに超える何ものかであると語った。

彼の話のポイントはこうだ：——

1. 現在の COVID-19 の変異種が、免疫を逃れることは「ありえない」——というのは「全くのウソ」である。
2. にもかかわらず、世界中の政府がこのウソを繰り返しており、我々が目撃しているものは、「無関係なものの相似性」(convergent opportunism)ではなく、「陰謀」だと主張している。他方、メディアやビッグテックの報道は、その同じプロパガンダや、真実の検閲に必死になっている。
3. 製薬会社たちは、すでに、必要もない「トップアップ」(booster=勢い付け)のワクチンを、変異株 (variants) として開発し始めている。会社たちは、現在の実験的 COVID-19 “ワクチン” キャンペーンにつけ加えて、数十億のガラス小瓶を製造する計画をしている。<https://www.lifesitenews.com/news/mrna-covid-19-vaccines-are-really-gene-therapy-and-not-vaccines-ethicist>

4. 米食料医薬品局（FDA）や欧州医薬品庁（EMA）のような規則を守る役所では、これらの「トップアップ」ワクチンは、緊急用に許可されたものとして認められた、それ以前の注射に非常に似ているので、医薬会社は「臨床安全性研究を行う」要求はされないと通知している。
5. したがって、これが実質的に意味するのは、くりかえし無理に実験されたmRNA ワクチンの目論見と実現は、「製薬会社のコンピューター・スクリーンから消えて、何億という人々の腕へと移行し、必要も全くなく、正当化もされない、いくつかの余計な遺伝子配列をそこへ注射することになる。」
6. なぜ彼らはそんなことをしているのか？ 有益である理由が見えない以上、それはワクチン・パスポートとして、「銀行のリセット」とともに、利用されることしか考えられない。こんなことは世界では、全体主義国家でしか起こったことがなく、スターリン、毛沢東、ヒトラー、「大量人口削減」といったものが、自然に思い浮かぶ。
7. こういうことが少なくとも**ありうる**という事実は、そのような制度が起こらないように、必死に戦わねばならないことを意味する。

Yeadon 博士は、最初に自分のことを、単に「退屈な男」で、「大きな薬品会社で働き…主要な国立の放送を聞き、大判の新聞を読む」だけだった、と説明した。

続けて彼は言った：——「しかし最後の年に、私は、私の政府とそのアドバイザーたちが、イギリス国民に面と向かって、このコロナ・ウイルスに関係するあらゆることについて、ウソをついていることに気づいた。本当にあらゆることでウソを言っていた。彼らは、症状のない伝染とか、あなたに症状がないという考えは間違っている、あなたは何かのウイルスの源泉なのだ、と教える。ロックダウンは有効だ、マスクの保護はあなたにも他人にも当然、価値がある、…また変異種は恐ろしいもので、こういう嫌な外来種が入ってきたときのために、国際的国境を遮断する必要があるほどだ、等々。

「また、つけ加えると、我々が奇跡的につくった、遺伝子に基づくワクチンの上に、何らかの〈トップアップ〉ワクチンが現れ、免疫の効かなくなった変種と戦わねばならぬかもしれない、など。

「今、私があなたに話したすべて、その一つひとつのすべては、立証可能な虚偽なのだ。ところが、我々の国家はこぞって、これらすべてを正しいとする基本方針を立てている。しかし彼らすべてが間違っている。」

**「陰謀」であって「無関係なものの相似性」ではない**

「しかし、私が話したいのは、immune escape（免疫破り）についてである。なぜなら、それがおそらく、この出来事全体の「ゲームの終わり」であり、私はそれを陰謀と考えているからである。昨年、私には、私のいわゆる「無関係なものの相似性」だろうと思ったことが起こった。それは、大量の賭けをやる人々が、ある混沌の世界に飛びつき、ある特定の方向に持って行ってしまったことだ。だからそれは、ある繋がった関連あるもののように見えたが、私は、それは単に偶然の同じ方向へ向かったのだと言った。

「しかしそれは私のナイーブな考えだった。これについて、私の心の中に全く疑問はない——この世界を取り巻く、非常に強い権力者たちが、次のパンデミックを利用する計画を実行したか、それともパンデミックを創り出したか、どちらかであろう。この2つの中の1つが真実である。なぜなら、それが本当で、それに違いない理由は、驚くべき数の政府が、こぞって同じウソを言っており、明かに生命にかかわる、同じ無意味なことを行っているからである。

「しかも彼らは、全く同じような未来の筋書きを語っている：—〈我々はあなた方が、こういう嫌な害虫である「変異種」のために、うろつき回ってほしくない〉——ついでながら私はこの variants を samiants と呼んでいる、それらがほとんど同じだからだ——しかし、彼らはみんな、こう言いながら、〈心配はいらない、やがてトップアップ（品質向上）ワクチンができて、免疫破りを解決してくれる〉と言っている。これが明かにナンセンスであっても、彼らはみんな、これを繰り返している。」

## ゲームの終わりか？：「ワクチン・パスポート」が制約を通じて、援助金消費につながる？

「私は、ゲームの終わりは、〈すべての人がワクチンを受ける〉ということになるのではないかと思う。この惑星のすべての人が、気が付いてみるとそれに納得し、うまくだまされ、特に命令されるわけでもなく、注射をするような環境になっている。

「彼らがそうなる時、この惑星の一人ひとりすべてが、名前を持ち、あるいは固有のデジタル ID や、ワクチン接種のあるなしを問わず、保健身分証や、…誰がもっているにかかわらず、1つのデータベースで、中央の操作可能なもの、あらゆる場所でコントロールを受け、いわば捧げるものとしての特権を持っているだろう。あなたはこの特定の境界線を越え、あの特定の取引を行い、また、ある人々のデータベースが何を定めるのかを知るだろう。そして、こういうことが重要なのは、ひとたびこれが決定すると、我々はオモチャとなり、世界は、そのデータベースをコントロールする者たちの、思うままになるからである。

「そして確かに、国際的な国境を越えることは、これらのワクチン・パスポート（と呼ばれるもの）の最も明らかな使い方である。しかし、私がすでに聞いている話では、それはあなたが、公的な場所や、閉ざされた公的空間に入るときでさえ、必要になることがあるということだ。私の予想では、もし彼らが望むなら、あなたは将来、あなたのアプリの正当な特権も剥奪されて、自分の家を離れることもできなくなるだろう。

「しかし、かりにそれがワクチン・キャンペーンの真の意図でなかったとしても、それには関係なく、それが真実でありうるというだけで、これを読むあらゆる人々が、必死に戦って、そんな制度が決して実現することがないように、努力しなければならないことを意味する。

.....

**なぜ私の政府は私にウソをつくのか？ それは彼らがあなを殺そうとしているからだ。**

「そしてもしあなたが、我々の政府（たち）が、ある大きな立証可能なウソに関わっていることを確認したら、あなたは、自分のコンピュータを切って、食事に出かけたりしてはならない。しばらく待て。窓から外を見て考えよ、〈なぜ私の政府は、これほど基本的なことについて、私にウソをつくのか？〉私はこう答える、〈彼らはこの方法を用いて、あなたとあなたの家族を殺そうとしているからだ〉

.....

**「人々はこれほどのレベルの悪に対処することはできない。しかしソビエト、ヒトラー、毛沢東らはその可能性示している。**

「私にとって絶対に明らかになってきたことは、私が知的な人々に話しても、友人や知人と話しても、私が何か重要なことを話しているとわかってくれることだ。彼らは私のポイントを理解する——道具としてのあなたの科学は、役に立たない。それは失敗する。

「それで我々は哲学者を必要とする。論理とか宗教とか、何かそういったものだ。それと取り組んで考える必要がある。そして、人々が理解できる言葉で話し始めなければならない。なぜなら、それを、私のような科学者にまかせておくと、私は良い意図を持っているのだが、少なくとも街の人々にとっては、何かわからぬことをしゃべるエイリアンになってしまう。彼らは、政府が自分たちにウソをつくとは信じないだろう。彼らは政府が、自分たちに害をもたらすような何かをするとは思っていない。しかし彼らはそのようにしているのだ。」

最後に、ある E メール通信で Yeadon 博士はこう言った：——「私は最近、手紙の最後に〈私たちに神の救いがありますように〉 May God save us と書く習慣がつかしました。なぜなら我々は、第 2 次大戦以来のどんな時よりも、今、神を必要としていると思うからです。」

### [Greatchain 訳注]

まずこれは、Jay Dyson という人の「抜き書き」によるもので、必ずしもこの言葉通りに話されたものではない。また数頁、省いたことを断っておく。

これが、今、注目的であるワクチンの Pfizer 社を、退職した副社長の言葉であることに、読者の多くは驚かれるであろう。Michael Yeadon 博士は、私が最初に、その肩書から推測したような、政治的立場を取る、会社の重役ではなかった。完全に研究者・技術者の道を歩いてきた、専門的科学家だった。その彼が、退職する最後の年に（と彼は言っている）、この世界に存在している、巨大な「ウソ」「陰謀」に気づいたと言っている。

重要なことは、その「ウソ」が、地球上の「すべての国家」に、すでに、受け入れられてしまったらしいことである。これは私が度々、紹介する SOTN の驚きでもあり、<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/210410.pdf> 彼は、もっと先のことだと思った One World Government がすでに実現していた、と言っている。Yeadon 博士は、もちろん SOTN とは関係のない人だが、彼も同じように、ある時、突然その（既成の）現実を発見して驚いている。

この文面から推測できるように、Yeadon 博士は、いかにも不器用そうな、研究一筋の人であり、政治的に動くような人ではない。その彼が、事実目覚めたときのショックの大きさが伝わってくる。それとともに、神に祈る言葉を、手紙の最後に必ずつけるようになったという、最後の付言が我々を打つ。